

先進優良事例② 生産者業務および集出荷場業務のDX化

「サプライチェーン強化」に関する実証

青果出荷販売DXコンソーシアム

背景・目的

- ・農業協同組合（JA）が担う青果の集出荷は、安定的な青果流通の実現のために不可欠となっている一方で、紙伝票や目視、労働力不足等による集出荷・精算業務の高い業務負荷が課題となっている。
- ・これらの課題に対して集出荷業務のDX化を通じて、JAの集出荷業務にかかる作業時間をシステム導入前と比較して50%短縮する。また、精算業務の省力化により、販売から2週間以内に確実に生産者に支払いが行われることを目指す。

取組概要

集出荷DX化システムの構築

1. 青果集出荷業務に要する労力の軽減

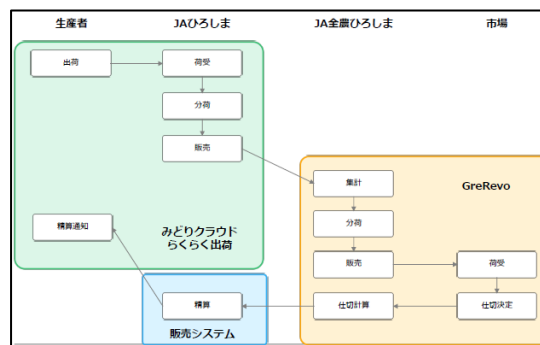
生産者から受信した伝票データをもとに検品・分荷し、その後規格別の出荷量集計出荷伝票を作成し、JA 全農ひろしまに自動送信を行えるよう実証試験を行う。また、集出荷場で運送事業者が行う配送先別の検品の際に、デジタル化された伝票で検品し、その結果をJA ひろしまへ自動送信する。

2. 精算業務に要する労力の削減と情報伝達の高速化

GreRevoで通知されたデータを取り込み、自動的に突合を行うことで、精算業務に要する時間を短縮し、既定の期間内で支払いできるようにする。さらに、タイムリーに農家に支払い金額を通知することで、資金繰りを支援する。

ポイント

本事業の成果によるサプライチェーンのデータ連携の全体像



1. 青果集出荷業務に要する労力の軽減
スマートフォン向けのアプリケーションの開発。現場の分荷作業の補助機能や伝票作成機能が実装された。



2. 精算業務に要する労力の削減と情報伝達の高速化
各集出荷場から受信したデジタル化された伝票（荷受データ・出荷データ）とJA全農ひろしまから送られてくる仕切価格データを連携させ、システムに取り込むことで精算業務の省力化・高速化に取り組んだ。

らくらく出荷生産者アプリから精算結果・販売結果が確認可能に



協議会体制図

(株)セラク

- ・コンソーシアム事務局（代表）
- ・申請手続・補助金管理・プロジェクト管理・成果報告
- ・システム開発

JA全農ひろしま

- ・事業検討委員会への参加
- ・データを活用した有利販売への取組み・精算業務省力化への取組み

JA広島中央

- ・事業検討委員会への参加
- ・生産者へ取り組み説明・補助
- ・データを活用した有利販売への取組み・精算業務省力化への取組み

青果出荷販売DXコンソーシアム

取組成果

- 集出荷にかかる業務時間
らくらく出荷の導入後は導入前と比較して、生産者では**23.3%**、営農指導員では**69.2%**の省力化効果があった。
- JA全農ひろしまにおける荷物の数量・分荷確定時刻
数量・分荷確定時刻は、らくらく出荷を導入したアグリセンターが増えるにつれて、**早まる傾向が見られた**。他の地域本部でも導入されることで中長期的には有利販売に寄与が期待される。
- 精算業務に要する時間（※従来の作業をヒアリングし、効果の推定実施した）
らくらく集荷を導入し、データ連携することで、これらの作業の大部分を無くすることが可能となる。その結果、**人件費を年間10万円程度にまで圧縮できると推定**される。

今後は、これまで対象としてきた個選共販だけでなく、共選共販形式の集出荷にも対応し、導入地域、対象品目をさらに拡大していく予定。